科目ナンバリング	G-LAS10 80002 LB31						
授業科目名 <英訳>	東アジアジュニアワークショップ East Asia Junior Workshop			担当者所属 職名・氏名	文学研究科　准教授　Stephane Heim 文学研究科　准教授　安里　和晃		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	日本語及び英語
旧群		単位数	3単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	月4	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（文学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について３大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度はソウル）。ワークショップでは、３大学から参加した学生が、各自の関心にしたがって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。

国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。

[到達目標]

(１)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。
(２)国立台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。
(３)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回～第6回　3大学の教員によるスカイプ授業
第7回～第15回　各自の関心にしたがってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。

8月お盆明けの5日間　ワークショップとフィールドワーク

[履修要件]

英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。

[成績評価の方法・観点]

授業へのコミットメント、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加、英語でのプレゼンテーションにより評価する。詳細は授業で説明する。

[教科書]

使用しない

東アジアジュニアワークショップ(2)へ続く↓↓↓

東アジアジュニアワークショップ(2)

[参考書等]

（参考書）
各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしたがって発表資料を作成する。

[その他（オフィスアワー等）]

詳細は最初の授業で説明する。

[主要授業科目（学部・学科名）]